

2020年8月27日

(幼保連) 認定こども園さふらん



園だより

9月号

9月の聖句

愛は決して滅びない

コリントの信徒への手紙1. 13章8節

秋の訪れが待ち遠しい頃になりました。例年より1週間早い2学期のスタート、久しぶりに子ども達の元気な声が園内に響きました。

コロナの感染予防策は引き続き行っていますが、集団生活のリスクを考えると、お子様の体調の悪い時には休ませるなどご家庭の協力もとても大切です。どうぞよろしくお願いいたします。

山ももや葉っぱを使って色水遊び・雨樋をつなげ水路作り等々、子ども達は小川周りでの水遊びを楽しんでいます。これから運動会の話し合いも始まりますが、限られた時間の中で競技一つひとつに想いを込めて取り組みたいと思います。

今年はコロナの影響で園外の研修会がほとんど中止になりました。そんな中、園内で「絵本」をテーマに各教師が自分の大好きな1冊の絵本（誰一人同じ本がない）を語り、互いに学び絵本の大切さを再確認した実り多い研修になりました。

さふらん幼稚園の充実した絵本について改めて思い返して見ると、創立時にお母さんたちの手で文庫が作られ、図書部がスタートし園で揃えた絵本と今も続いている父母会費で購入していただいた絵本、そして在園中の1983年再生不良性貧血で亡くなった川崎めぐみちゃんのご両親から10年にわたり毎年10万円の寄贈があり、その全てを絵本の購入に充てた「めぐみぶんこ」からなっています。それらの本は3つの図書コーナーと各クラス・ランチルームに置かれています。素敵なたくさんの絵本に囲まれている子どもたちはなんと幸せなことでしょう。今ある図書は教師の力だけでなく多くの父母と図書部の方々による本の管理や修理や購入、子どもたちへの読み聞かせなど皆様と共に歩んできた道であったと感慨深く感謝の念でいっぱいです。ありがとうございました。

聖書の中で「愛」について語られた有名な箇所です。「そこで、私はあなたがたに最高の道を教えます。」で始まり「愛は忍耐強い、愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かな

い。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」に続く言葉が今月の聖句です。

9月の幼稚園だよりから

園長 早坂 悦子

残暑厳しい毎日に秋の訪れが待ち遠しい頃になりました。

夏休みの保育はそれぞれの夏季休暇もあり、人数は少なめでしたがテラスで水遊びを楽しみました。教師の体制も変わった中、子どもたちは落ち着いて過ごしていて安堵しました。

コロナの広がりも懸念される中、2学期がスタートしました。園でも感染予防策は引き続き行っていますが、小さいお子さんだけに集団生活のリスクを考えると具合の悪い時は休ませるなどご家庭でのご協力を宜しくお願いいたします。

この夏、コロナの影響で園外の研修会がほとんど中止になり、園内で「絵本」と「わらべうた」について学びました。

「子どもは乳幼児期から、母親と一緒に喜びあいたいのです。自分ひとりで喜んでいることなど本当の喜びではなく、相手（他者）と喜びを分かち合っこそ本当に人間的な喜びになっていることを本能的に実感している。幼い子どもに、優れた絵本を読み聞かせる最も大切な意味は喜びを分かち合う体験にあります。」～佐々木正美著「はじまりは愛着から」～

毎日の保育の中で絵本を読む時やわらべうた遊びをするその一瞬は、子どもたちと保育士が一心同体になる素敵な時間です。親子の間でもそんな体験が一杯あることでしょう。これからも喜びを分かち合う時間を大切にしたいと思います。

夏の疲れも出てくる頃ですので、体調を整え元気に過ごしていきましょう。

今月の聖句は「愛」です。「愛は ほほえむことだけで、始まります」（マザーテレサの思いより）何気ない笑顔が愛の第一歩です。

幼稚園とナーサリーが共にする行事が10月の運動会と11月のプレイデーです。今年度はコロナの収束が見えない中、運動会は幼稚園のみで時間を短縮して行います。プレイデーは、子ども達の作品展と園内だけでなく地域の皆様を招いて遊ぶ1日です。大勢が集まりますので今年度は中止としました。

9月のナーサリーだよりから

園長 早坂 悦子